

平成29年2月

田本明弘 学位論文審査要旨

主査 汐田剛史
副査 梅北善久
同 磯本一

主論文

Protein expression of FHIT and COX-2 in serrated neoplasia of the colorectum

(大腸鋸歯状腫瘍におけるFHITおよびCOX-2蛋白発現)

(著者：田本明弘、八島一夫、細田康平、山本宗平、川田壮一郎、池淵雄一郎、松本和也、
河川剛一郎、原田賢一、村脇義和、磯本一)

平成29年 Oncology Letters 掲載予定

参考論文

1. Expression of methylation modulated tumor-related genes in endoscopically resected early esophageal squamous neoplasia

(内視鏡的切除された早期食道扁平上皮性腫瘍におけるメチル化により調節される癌
関連遺伝子の発現)

(著者：細田康平、八島一夫、田本明弘、山本宗平、川田壮一郎、池淵雄一郎、
松本和也、河川剛一郎、原田賢一、村脇義和、磯本一)

平成29年 Oncology Letters 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は内視鏡的に切除された大腸鋸歯状病変(hyperplastic polyp、traditional serrated adenoma、sessile serrated adenoma/polyp)について、非鋸歯状腺腫、腺腫内癌、腺腫成分を伴わない早期癌(純粹癌)を対照とし、癌関連蛋白であるFHIT、COX-2、MLH1、MSH2、P53蛋白発現を免疫組織化学染色で比較検討したものである。その結果、FHIT蛋白発現異常とCOX-2蛋白陰性はserrated pathwayを経由する腫瘍化に関与すること、純粹癌には adenoma-carcinoma sequence由来とserrated pathway由来のいずれの腫瘍も含まれる可能性が示唆された。本論文の内容は、大腸鋸歯状病変とFHITおよびCOX-2蛋白の関係を示すものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。